

## 海洋学の名前について\*

宇田道隆\*\*

日本では明治17年(1884年)大日本水産会報に松原新之助述「海洋学」が出たのが最も古い。Sir John MURRAY の著「The Ocean. A general Account of the Science of the Sea」(1913年)(Home University Library of Modern Knowledge. Williams and Norgate 刊の1冊)のp. 11に Oceanography という言葉もちこんだのは1880年頃 John MURRAY 自身だと書いてあり、1584年にフランスで「Océanographie」という言葉が用いられたことをマレーの英語辞典で知ったと書いている。松原先生(後の初代水産講習所長)は明治12年(1879年)にドイツの万国水産博覧会に出張されたから多分フランスや英国のそのような最新知識をとり入れ帰朝後普及の筆をとられたものと推察する。John MURRAY は有名なチャレンジャー探検(1872-76年)に参加した海洋地質学の鼻祖で、チャレンジャー号探検報告50巻の編集刊行に一生を献げ1910年のノルエーの「Michael Sars」号の北大西洋探検に協力し、Johan HORT と共著の「The Depths of the Ocean」(1912年)なる古典的名著をあらわした偉人である。Oceanography の言葉の以前には Thalassography といって、地中海を Thalassa とよんでいたからで、イタリア、(ギリシャで Thalassographos が海洋学)で用いられていた。しかし、MURRAY は「Oceanus」が近代地理学の大洋、海洋に対応するから Oceanography がよいとした。

ここに興味のあるのは Oceanography 又は Oceanology という言葉がのべられていて、両方公正しい用法とされていることである。(海洋学は海水におおわれた地球の部分の科学的研究と定義される。)

\* 1964年4月21日受理

\*\* 東京水産大学

Oceanology という語を提唱されたのを1953年マニラで開かれた第8回の太平洋学術会議の席上で、カナダのブリチッシュ・コロンビア大学の W. CLEMENS 教授(海洋研究所長)の口からはじめて聞いた。その後、ソ連が熱心にこの語を Oceanography に代えようとしていることをきき、実際、ソ連学士院海洋研究所の名称や、同所報告に Oceanology が用いられており、精密海洋学 exact Science をめざしての意志表明とうけとっていた。しかしこの言葉はすでに1913年の J. MURRAY の本に出ていて、少くも1913年以前に現われたもの推察される。そうすると Oceanographer に対して Oceanologist という者が考えられよう。もっとも内容実質が問題であって、レッテルで内容が変わるものとは思えない。のちのちの研究考証のために記しておく。

1) フランスの何にだれがのべたかは不明。1725年に L. F. MARSIGLI 伯(イタリア)が海の理学(natural history of the Sea)の本をフランス語で書いているが海洋学の語はない。フランス海洋学の父とよばれる Jullien THOULET(ソーレー, 1843-1936年)は1890年、1896年に古典的名著「海洋学」(静力学、動力学)の2巻を出した。このときは海洋学とはっきりのべている。Otto KRÜMMEL(ドイツ)の名著「海洋学」2巻の出版は1907, 1911年である。

ドイツでは Meereskunde という言葉が愛用されて来た。(G. SCHOTT, G. DIETRICH の著書のように)。アメリカでは M. F. MAURY の Physical Geography of the Sea (1855年)がある。こうしてみると日本もそうおかれていない。寺田寅彦先生の「海の物理学」(1913年)も歴史的な注目すべき文献になる。